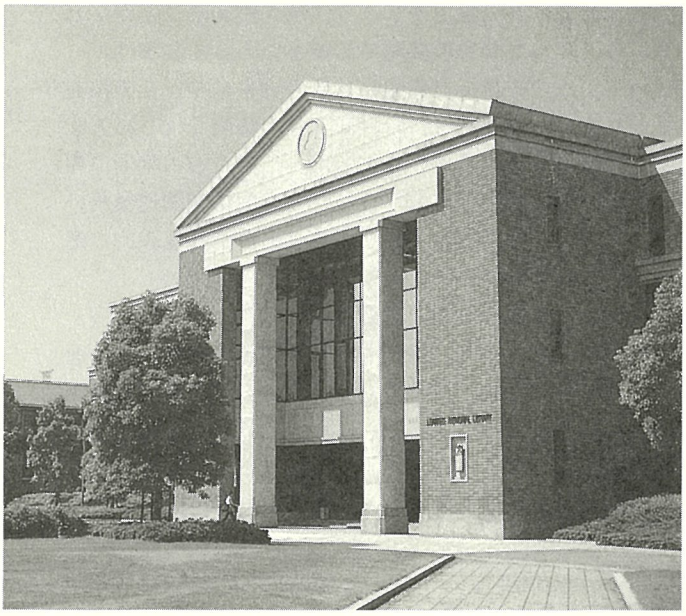
NO. 1
1991年6月

同志社大学
学術情報センター報



目 次

ごあいさつ……笹田友三郎…2

学術情報センターの発足に寄せて

センター発足の経緯とサービスの向上を目指して…前川　恭一…3

センターへの期待……小橋　一郎…3

情報の魔……木枝　燦…4

新オンライン目録検索システム紹介

―学内すべての端末から図書・逐次刊行物の検索ができます―…5

お知らせ……8

ごあいさつ

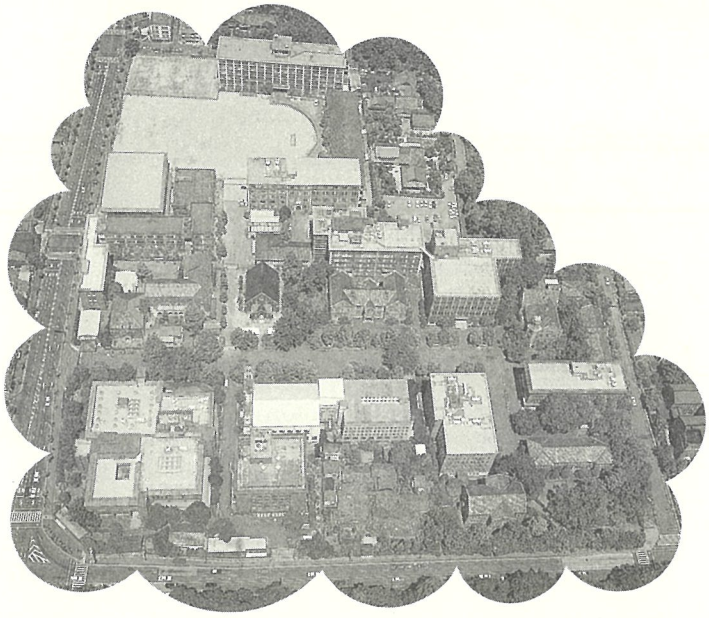
大学長　笹田友三郎

教育と研究における情報とのかかわりあいが、それぞれの学問分野によって異なることは申すまでもありません。学術情報をめぐる環境のめまぐるしい変化も、日常生活のなかで実感させられております。「情報の氾濫」というひと言で表現されてはおりますが、これまで不可能と考えられていた情報や精密なデータの入手が想像もできないほどの速さで可能になりつつあります。それらを日常の教育研究に最大限生かしうる体制を整えることが、わたくしたちに与えられた緊急の課題であるといえるでしょう。

本学ではいくつかの委員会で情報化社会の到来にむけての検討を重ねてまいりました。同時に、学内ＬＡＮの整備をはじめとしまして、学内におけるインフラストラクチャーの構築に努めてまいりました。このたびの学術情報センターの発足は、情報処理教育・研究委員会に検討を依頼しておりました「学術情報関連業務の再編成」にかんする答申に沿うものであります。そこで提言されておりますさまざまな建設的な意見の実現にむけ、いま第一歩を踏み出したところであります。

図書館はこれまで教学全般に大きな役割を果たしてきましたが、学術情報センターはコンピューターによる情報処理技術との有機的連係をはかることによって、また、情報量の増大、処理技術の進展、さらに利用者ニーズの多様化に対応しうる体制を整えることによって、これまで以上の貢献をなしうるものと期待しております。

利用者各位におかれましても、統合再編の趣旨をおくみとりいただきご協力くださいますようお願い申しあげます。最後に、本学の研究教育環境がより一層充実するよう祈念いたしております。



学術情報センターの発足によせて

センター発足の経緯と サービスの向上を目指して

前情報処理教育・研究委員会委員長
前川　恭一（商学部教授）

同志社大学では、田辺校地の開校にともない、今出川と同じく、田辺でも図書館と計算機センターと視聴覚室が設けられ、両校地におけるそれらの業務を担当する６つのセクションが、これまで、それぞれの責任においてサービスを提供してきたが、このたび、学術情報センターが発足し、それらのすべての業務をひとつにまとめ、いっそう緊密な連関のもとで管理運営することになった。

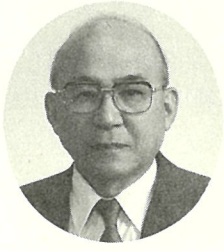
かえりみると、計算機センター委員会のもとに検討小委員会が設けられ、情報化時代に対応する教学体制の強化について、その具体的方策の検討に入ったのが1986年10月であった。東京の諸大学の視察にも出かけ、会議を重ねるごとに共通の認識が生まれ、1988年４月には情報処理教育・研究委員会が正式に発足した。その後、視聴覚関連教室や情報処理実習教室の拡充、デジタルＰＢＸの導入による学内高速通信ネットワークの構築など、二ツのキャンパスを一体の教学空間とする情報システムが整備されてくる中で、1990年１月には、「学術情報関連業務の有機的再編について」の委員会構想がまとまり、その計画書が学長のもとに提出された。それを受けて、笹田学長はいち早く「学術情報センターの設置にともなう同志社大学事務機構規程（改正）について」の具体的実施案を同年３月に示され、若干の検討・調整期間を経て、このたび、学術情報センターが実現する運びとなったのである。

同志社大学のような総合大学で、このような多面的な諸機能を一元的に総括する教育研究支援システムをもつのは、全国でもあまり例がなく、恐らく初めての試みであろうと思われる。それだけに実施段階に入って、これまで予期しなかった問題が起ってくる可能性もあり、多少の試行錯誤は覚悟しておかねばならぬであろう。

学術情報センターは、同志社大学の教学体制を支える情報ネットワークのいわば心臓部にあたるところである。センターのもつそれぞれの機能が有効に働き、毛細管のように、研究室や教育現場のすみずみにまで、行きとどいたサービスを提供することができるよう、教職員や学生の声を十分に汲み上げ、施設面だけではなく、人材養成や管理運営の面でも、全学の期待に応えて、いっそう充実した体制を築き上げてくれることを心から願っている。

センターへの期待

元図書館長
小橋　一郎（法学部教授）



24年前に１年足らず図書館長を勤めたことがある。44歳の頼りない館長であった。当時の図書館は、啓明館と鉄骨の旧教室から成り、現在では想像もできない劣悪な条件の下にあった。けれども、館員のみなさんとお友達になって、図書館業務についていろいろ教えてもらったし、時にはいっしょに遊びもした。忘れぬ１年である。

とにかく新図書館の建設が急務であった。図書館内部では、問題別

にいくつかの委員会が設けられ、館員全員どれかの委員会に属し、熱心な討議が繰り返された。その討議の中で、図書館の将来像に関する多くの貴重な意見が出された。学術情報センターとしての図書館は、必ずしもそれ自体の蔵書を抱えることを要しないという意見には、目を覚まさせられる思いであった。コンピューターの導入も、夢として語られた。現在の立派な図書館が建設されたのは、その何年か後である。

今、図書館と計算機センターと視聴覚教育施設を統合した学術情報センターが発足した。長期にわたる検討と綿密な計画に基づいて実現されたのであろうが、その事情を知らない私には、24年前の夢が突如現実となったように思えて、感慨深いものがある。今後、利用者の要望を十分汲み取りながら、大きく発展してほしいものである。

大学は、研究機関である。大学における教育は、研究を基礎としてのみ可能である。あるいは大学の大衆化と称して、大学の性質が変わったかのようにいわれ、あるいは大学進学者の減少を予想して、大学の危機が叫ばれる。しかし、大学における研究が充実していれば、そう慌てることはない、と私は思う。もっとも、研究者が過重な講義負担や雑用に打ちひしがれているようでは困る。活発な研究活動とあいまってこそ、本センターは真価を発揮できるであろう。

情 報 の 魔

初代計算機センター所長
木枝　燦（同志社大学名誉教授）

情報という言葉が氾濫している。情報公開という言葉が示すように、その取捨選択は大幅に自由化されてきた。利用者にとっては便利で結構なことである。しかし、情報というものはついそれに嵌りこんでしまう罠の性格をもっていて、極めて危険な代物でもある。すぐる15年戦争中私も新聞の活字を随分信じこんだ。また、日本では文化大革命の礼賛的記事が多かったが、英国では幼稚園革命ときめつけた由である。似たようなことは現在でも沢山あるように思える。表現というものはいずれにしても魔的要素をはらむ。

学術情報は研究者の学術的良心に従って発表されるから安心かというと必ずしもそうでもない。前提が曖昧であったり、測定法が判然としなかったり、当方の外国語理解力の不足があったりする。映像は一見理解しやすいが、あとになって真偽が分からなくなることがある。コンピューターの計算結果にもそのような所がないこともない。

選択した情報を分析し、理解し、その本質を把握する所まではかなり客観的に行うことができるが、それがどのように真であるかの重みつき価値を判断することが重要であって、そこに至る前に主観的に印象として受けとってしまうと罠に落ちこむ。

学会で見るように対話は情報伝達と交換の最良の手段であるが、双方あくまで噛み合わないこともある。外国人相手のときを考えれば、特に語学の重要性を痛感する。

今回学術情報センターが新設されて情報サービスが大きく前進することはまことに喜ばしい。しかし、事務的仕事にも限度がある。やはり大切なことは利用者がどのように利用するか、その結果どのような発信ができるかにかかっていると思う。

DOORS（DOshisha Online Retrieval System）

新オンライン目録検索システム紹介

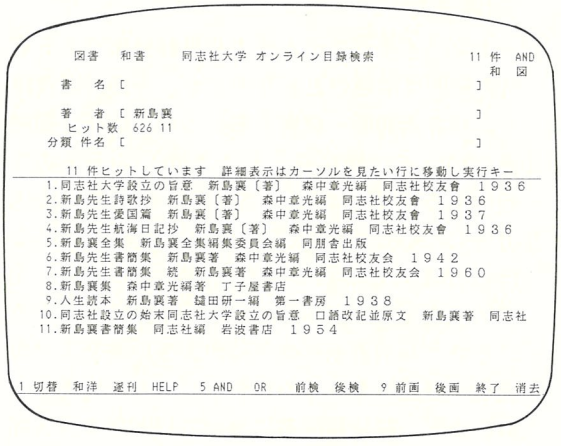
―学内すべての端末から図書・逐次刊行物の検索ができます―

「情報化社会」と言われている現在、研究成果として出版される図書や逐次刊行物の量は飛躍的に増加しており、これらの資料が速やかに検索・入手できるようにという利用者の要望はますます大きくなってきています。大学審議会での審議の概要報告（1991年２月）においても、今後の図書館の在り方にかかわるいくつかの指摘がなされていますが、その中の項目に、情報処理機能の充実、データベース・サービス、さらに学術情報システム活用についての配慮が求められています。

このような状況に対応するため、1990年４月から文部省の大学共同利用機関である学術情報システムに参加し、NACSIS-CAT（National Center for Science Information System Cat-alog）利用による目録作成システムを運用しております。NACSIS-CATとは、共同分担目録（Shared Cataloging）、資源の共有（Resource Sharing）の理念によるオンライン目録作成システムです。このシステムの利用により、資料整理（目録の作成）の省力化・迅速化とともにデーターの標準化、アクセスポイントの充実など目録の質の向上も一定度実現することができました。本学のオンライン目録検索システムの基礎となるデータも今後は、このNACSIS-CATのデータを利用することになります。また、発注から貸出返却までの学術情報関連業務機械化も進めておりますが、この中でオンライン目録検索システムは学術情報関連システムの成果として広く利用されるものであります。

本学でのオンライン目録検索は、田辺の学術情報センター（ラーネッド記念図書館、以下ラーネッド記念図書館と言う）が1986年４月、逐次刊行物が1987年10月、今出川の学術情報センター（今出川図書館，以下今出川図書館と言う）と各部科の図書については1988年４月からそれぞれ運用を行ってきましたが、学術情報センターが発足した1991年４月からはこれまでのものを大幅に改善し利用しやすくなった、新しいオンライン目録検索システムのサービスを提供できることになりました。

オンラインによる目録検索は、以前のカード目録による検索と異なり正確な著者・書名が判明していなくても、単語単位での多様なアクセスポイントから全学の図書・逐次刊行物の所蔵情報を迅速に検索できます。情報化時代の新しい検索ツールとして多くの利用者が有効に利用されることを期待し、以下にその概要を紹介致します。



《新オンライン目録検索システムの概要》

本システムは、本学が所蔵する図書・逐次刊行物の目録を、今出川・田辺の両校地学術情報センター・ＴＳＳ教室・研究所・研究室・事務室等学内に設置されている全ての端末・情報コンセントから検索できるものです。これまでの検索システムは、コマンド入力方式で検索語の文字種もヘボン式ローマ字に限られているなど多くの制約がありましたが、新検索システムではこれらの制約がなくなり容易に利用できるようになりました。

主な特徴としては以下のものが上げられます。

①画面誘導方式により、コマンドを覚えることなく探したい資料の単語を入力することにより検索できます。

②入力する単語の文字種は、漢字・ひらがな・片仮名・ローマ字（ヘボン、訓令式とも可）のすべてが使用できます。

③読みの別れるもの、例えば、日本（ニホン・ニッポン）世論（ヨロン・セロン）などはどちらからでも同様に検索できます。

④図書・逐次刊行物、和書・洋書、ラーネッド記念図書館の図書等各データベースの切替えも画面表示に従ってファンクションキーを押すことによりできます。また、各データベースともすべて同じ手法で検索できます。

⑤副書名・双書名からも単語単位で検索できるなどアクセスポイントの充実を計りました。

⑥多巻物は巻号順に表示され、ソート機能も改善されました。

⑦件名からの検索についても充実を計りました。

⑧その他、検索結果の画面を前後できるなど多くの点で利用しやすくなっています。

なお、ラインモードによる利用もできます。

《検索できる資料の範囲とファイルの更新》

①今出川図書館と各部科の図書

原則として1982年以後の受入れのもので、1991年４月現在で285,000タイトル（和書172,000、洋書113,000）が検索できます。これは、新分類図書（1964年以降受入）の約５分の３程度です。今出川図書館では、年間約３万冊の図書を整理し入力していますので毎年この程度のデータが蓄積されることになります。検索ファイルの更新は各部科への本の返却に合わせ３週間サイクルになっています。

ただし、アメリカ研究所の洋書、人文科学研究所の図書は入力されていないので現在は検索できません。また、ロシア語は別ファイルになっています。

②ラーネッド記念図書館の図書

すべての図書が検索できます。1991年４月現在で、約77,000タイトル（和書71,000,洋書6,000）が入力されています。ラーネッド記念図書館では、年間約１万冊の図書を受入れており、検索ファイルの更新は１ヵ月サイクルです。

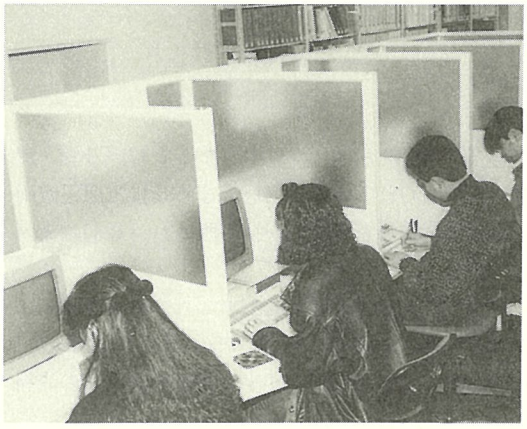
③逐次刊行物

本学所蔵のすべての逐次刊行物が検索できます。1991年４月現在で、約20,500タイトル（和書13,200, 洋書7,300）が入力されています。検索ファイルの更新は、図書と同様３週間サイクルです。所蔵情報は入力した情報のすべて（仮受入、製本中を含む）が表示されます。なお、逐次刊行物のロシア語は和書ファイルに含まれています。

なお、ラーネッド記念図書館については、いわゆる雑誌類のみが対象となっており、一般の逐次刊行物(年鑑、白書、統計等)は図書扱いになっています。

《遡及入力》

オンラインシステムにより目録検索できる資料の範囲は前述のとおりですが、今出川図書館および各研究所・研究室等については新分類図書（1964年以降に受入れたもの）の５分の３程度しか入力されていません。従って、未入力分については従来通りカード目録によらなければならないのが現状です。このため、全ての図書がオンラインにより検索できるようにという利用者からの要望の大きい遡及入力の実現が課題になっております。これに応えるため、まず、新分類図書について1990年４月文部



省の学術情報システム参加後からテスト的に入力してきましたが、1991年4月現在で約25,000タイトルが入力できています。1991年度からは予算措置もとられましたので本格的に実施し、3年から4年計画で新分類図書はすべて入力する作業を進めており、1991年度は和書を中心に、約10万タイトルの入力を目指しています。

また、学術情報システム参加以前に作成・入力されている多巻物で、各巻書名・著者から検索できないものについてもNACSIS-CATのデータへ切替えることにより改善を計りつつあります。

旧分類図書（1963年以前受入れのもの）については、新分類図書入力後の課題になります。

以上が新オンライン目録検索システムの概要と今後の計画です。以前のものより大幅に改善され利用者の要求に応えられるものになりました。今後はさらに、ＯＰＡＣ（Online Public Access Catalog）としての機能を高めるため、学術情報関連業務全体の有機的なシステム化に取り組み、貸出しが可能かどうかの情報の表示、アクセスポイントの一層の充実など、より良い検索システムの実現に向けて改善を計りたいと考えております。

また、人文科学研究所の図書、アメリカ研究所の洋書についても早期に入力できる体制を整えなければなりませんが、そのためには分類・図書記号の統一を計ることをはじめ、全学的なデータの標準化、システムの標準化についても利用者の声を聞きながら積極的に取り組みたいと考えておりますのでご理解をお願い致します。

本検索システムの愛称は、ＤＯＯＲＳ（DOshisha Online Retrieval System）と命名されました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

※　本検索システムの基本ソフトは、日立の情報検索システムＯＲＩＯＮ（Online Retriever of InformatiON）です。ＯＲＩＯＮには種々の機能がありますが、書誌データを効率良く蓄積し各種の条件を与えて検索できるシステムであり、ＴＳＳ（Time Sharing System）環境で会話形式の検索ができるものです。

※　ＯＲＩＯＮに、本学学術情報センターで開発した、入力・出力ルーチンのシステムを付加し、フルスクリーン制御することにより画面誘導型の検索システムを実現しています。

※　漢字検索については、平和情報センター漢字支援システムHappinessを使用しています。このソフトにより、漢字のワード検索、副書名・双書名の読みによる検索を可能にしています。

※　本検索システム利用については、利用ガイドを発行しております。また、検索システムに組み込まれている、HELP機能を利用することもできます。

※　本検索システムは、本学が持っている資料の所蔵情報を知るための目録検索システムです。抄録・アブストラクトと言われている二次情報のデータベースではありません。この種の検索については、NACSIS-IRが利用できます。

※　ご質問・ご意見等は、閲覧係・各研究室係・目録システム係でお受けします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〈お知らせ〉

「小室・沢辺紀念文庫目録」刊行

当センターの図書館（今出川校地）には、数多くの特殊文庫が設置されています。なかでも、「小室・沢辺紀念文庫」は、明治前期の政治家であり自由民権論者として知られている小室信介ならびに沢辺正修両氏を記念して、多くの方々の寄付金により6,000冊近くの図書・資料を集めて一括寄贈され、最初の文庫として設置されたものです。

コレクションとしての高い学術的価値に鑑みて、1986年貴重書庫に別置保管しました。別置を機に、資料の整備保全を図り、「小室・沢辺紀念文庫目録」を今春刊行しました。目録の構成は756タイトル（5,420冊）収録、「小室信介・沢辺正修と同志社」（人文科学研究所高久嶺之介教授執筆）、「小室・沢辺紀念文庫の資料について」および書名索引等から成っています。

オンライン目録検索用端末機増設

オンライン検索の利用者が増加していますので、学術情報センターの今出川校地図書館に５台、田辺校地ラーネッド記念図書館に２台それぞれ増設いたしました。

また、1964年４月から1982年３月までに受入れた資料についても遡及入力を開始いたしておりますので、先ず端末機で検索してください。

学術情報センターの各施設　開室時間

図書館（今出川校地）、視聴覚室、計算機室の開館・開室時間は、平常通りですが、ラーネッド記念図書館（田辺校地）は、下記の通り変更いたします。

☆ラーネッド記念図書館開館時間　６月17日（月）～７月22日（月）

	２・３階	１階
月～金曜日	９：００～１８：００	９：００～１９：００
土　曜　日	９：００～１６：００	９：００～１７：００

＊詳細は、各施設の掲示板、利用案内をご覧ください。なお、夏期休暇中につきましては、追って掲示板、「ONE PURPOSE（同志社大学通信）」等でお知らせいたします。

学術情報センターでは、この「学術情報センター報」ほかに「学術情報センターニュース」を発行し、最新のニュース、お知らせ等を逐次広報いたしますのでご覧ください。

同志社大学学術情報センター報　No. 1　1991年６月10日発行

編集・発行　同志社大学学術情報センター
〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入　☎075-251-3960

印　刷　同　朋　舎